

下肢静脈瘤に特化した血管外科センターで 患者の症状に応じた幅広い治療を提供

医療法人 康仁会

西の京病院

理事長 高比 康臣

病院長 櫻井 隆久



診療科目：内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、
腎臓内科(人工透析)、糖尿病内科、外科、整形外科、
脳神経外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、
リハビリテーション科、放射線科、眼科、麻酔科(榮長登志)、
リウマチ科、血管外科、歯科、救急科

受付時間：月～土 8:30～12:00

休 診 日：日・祝

〒630-8041 奈良県奈良市六条町 102の1

TEL.0742-35-1121 FAX.0742-35-1160

<http://www.nishinokyo.or.jp/>

下肢静脈瘤症例数

(2014年1～12月)

血管内焼灼術	280
ストリッピング術	172
硬化療法	17
その他	6
計	475

詳細な診断に基づき 治療法を選択する

下肢静脈瘤は、足の血管が青く浮き出たり、瘤状になったりするだけでなく、時には痛みやこむら返りなども引き起こす疾患だ。西の京病院では血管外科センターを設置して、下肢静脈瘤に特化した治療を実践してきた。第一に心がけるのは病状の正確な把握だ。「この疾患は、見た目だけでは具体的な症状がわからないことが多いのです」と、今井崇裕医師は血管の状態を詳しく調べられるエコー検査で丁寧に調べると共に、独自のチェックシートで患者が悩んでいる症状も確認するという。

こうした診断に基づき、足を圧迫する圧迫療法、注射で血管を固める



血管外科センター長 **今井 崇裕**
いまい・たかひろ ●1999年に埼玉医科大学を卒業。北海道大学病院循環器外科を経て、2008年に西の京病院で血管外科を開業。日本外科学会認定外科専門医。

多くの患者を救うため 啓発活動にも力を入れる

同センターの患者数は年々ほぼ倍増しており、2014年1～12月には475件の下肢静脈瘤手術を実施。血管内焼灼術が体への負担が少なく、高い治療効果が望める反面、国内の実施施設が限られていることから、県外からの患者も多い。「下肢静脈瘤は

硬化療法、血管を焼灼して閉塞させる血管内焼灼術、血管を抜去するストリッピング手術といった幅広い治療を使い分けていく。いずれも施術時間は30分以内と短く、日帰りでの治療を提供しつつ、希望に応じて入院にも対応。院内に循環器内科や整形外科、リハビリテーション科などを備え、PET検査センターや透析センターなどを備えた関連施設の「メディカルプラザ薬師西の京」が隣接する環境を生かした総合的なサポートも患者にとって心強い。



最新機器も導入された手術室



外来診療にたずさわる血管外科センターのスタッフ

現在同センターでは患者数の増加に応じてWEB予約や診療の効率化を進める他、より高度な治療の提供を目指すと共に、海外の新技術についての研鑽や、学会活動への参加などを通じ、スタッフのレベルアップにも努めている。「病気に悩んでいた患者さんが元気になって帰って頂くことが一番の楽しみです」と、今井医師は下肢静脈瘤に悩む地域住民をより多く救うことを志す。

構成／鈴木健太